

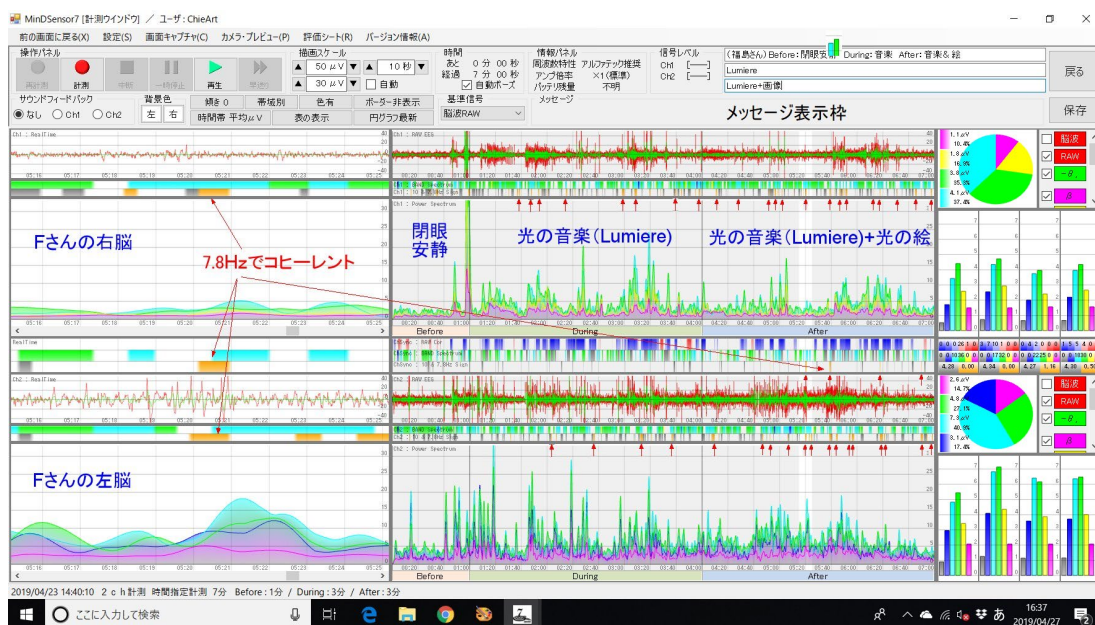
# ChieArt 作品と Chie 作曲 CD 視聴時の脳波

(2019 年 4 月 23 日)

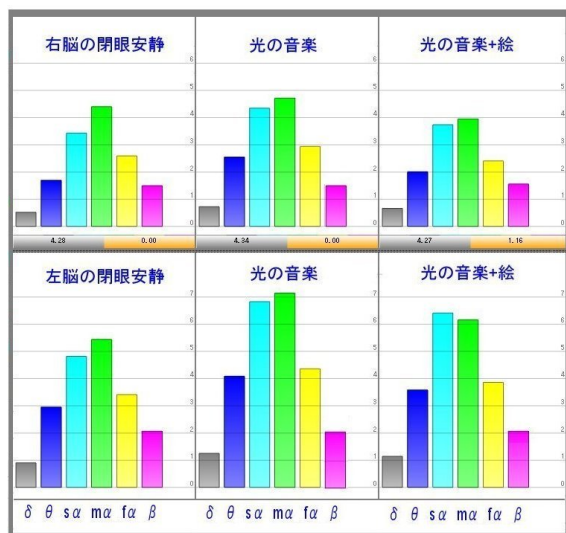
測定場所 脳力開発研究所

測定 住友大我 分析 志賀一雅

## 1. F さんの音楽瞑想の右脳（上段）と左脳（下段）の脳波



上図では、眼安静状態で、右脳も左脳も観察できなかった 7.8Hz のスペクトルが、↑で示したように頻繁に観察された。これはバンアレン帯のプラズマ振動による電磁波と共鳴している可能性が大きく、天界のエネルギーや、1/f ゆらぎ情報を取り込んでいる可能性が大きい。その傾向は、Chie 作曲の音楽+ChieArt の絵の場合の方が強かった。



脳波のスペクトル変化を拡大すると左図のようになり、β波は殆ど変わらなかったが、α波は音楽を聴くことにより増大した。このα波は音楽+絵では若干減少するが、視界には絵以外の情報も含まれて集中を阻害しているからだと思う。厳密に論ずるためには実験計画をしっかりとって行わない。

臨床脳波では視覚情報の入力で $\alpha$ ブロックが生じて $\alpha$ 波は消失するというのが通例だが、それに反して $\alpha$ 波は強く観察され、注目すべき現象が起きた。

## 2. Iさんの右脳（上段）と左脳（下段）の脳波



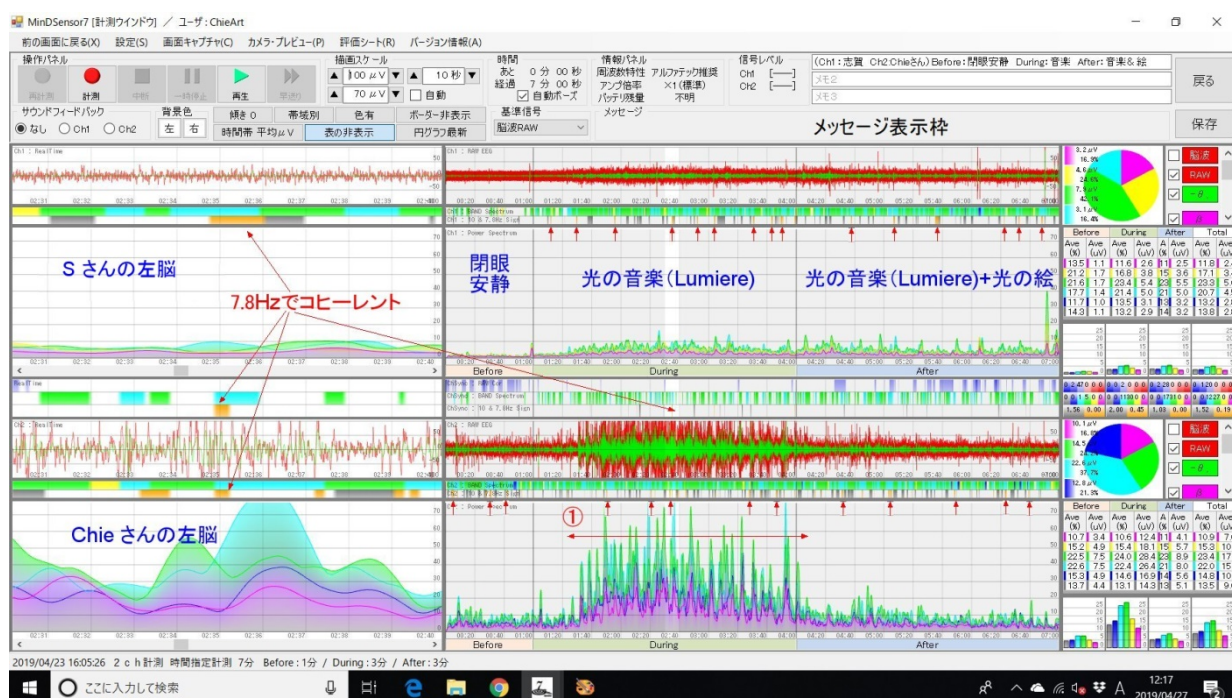
上図はChie 作曲‘ルミエール’を聞いた時の脳波。下図は比較のために他の音楽‘G線上のアリア’を聞いた時の脳波。ただし、音楽再生装置が異なる



ことによる音質の差が無視できないので厳密なことは言えない。

両者の大きな違いは、音楽を聴いているときの右脳の反応が、光の音楽では ↑ の 7.8Hz のスペクトルが5箇所観察されたのに対してG線上のアリアでは全然観察できなかった。このことはChie作曲の音楽は天からの光エネルギーを取り込む要素になっているのに対し、G線上のアリアは美しい音楽としての認識だけだと思われる。

### 3. Sさんの（上段）とChieさんの（下段）の脳波（4月23日）



右脳と左脳とは脳梁で繋がっていて頻繁に情報を交換しているのに共鳴しない人が多い。ところが2人には何のつながりもないのに、閉眼安静の時にインフェイズで共鳴していた。そのメカニズムをぜひ解明したい。おそらくChieさんの7.8Hzのスペクトルが何らかの作用をしていると思われる。

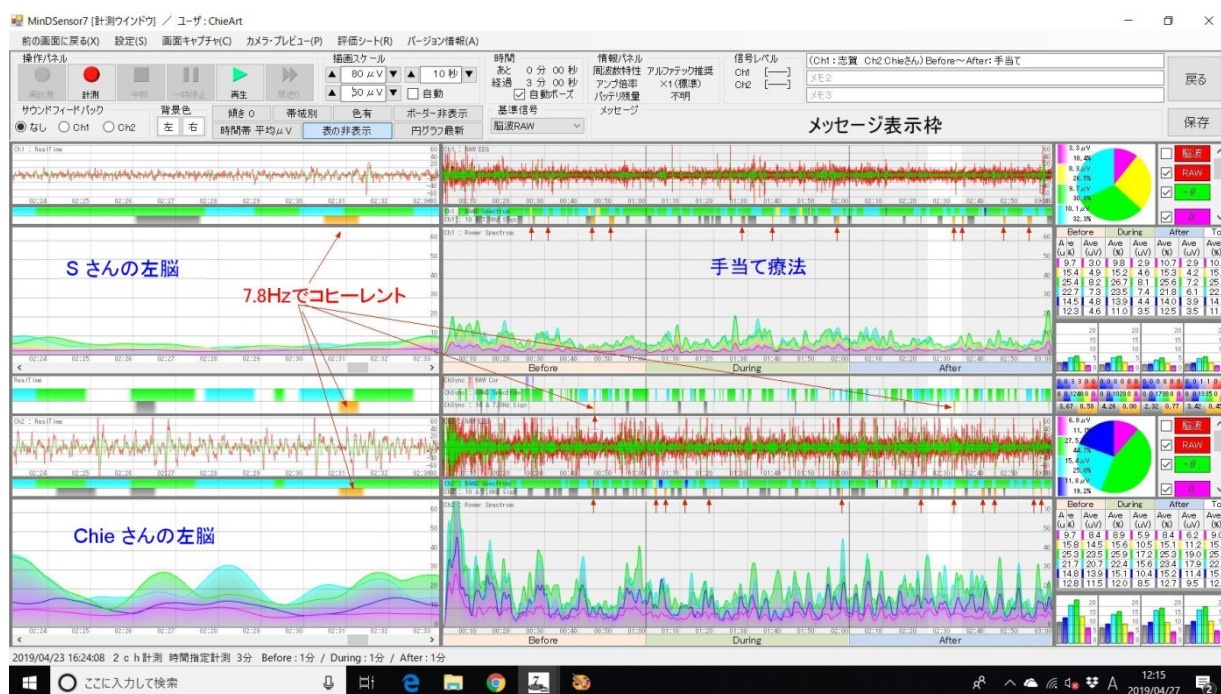
光の音楽を聴く段階では、Chieさんの脳波は ① で示した範囲でα波が50~100μVになり、通常の5~10倍ほどの非常に強いピークを示した。

↑で示した位置において7.8Hzのスペクトルが観察され、天界のプラズマ振動の基本波と共鳴したと思われる。更に ① の範囲では、通常ではめったに見られないγ波も確認された。バンアレン帯のプラズマ振動の高調波と共鳴して天界の強いエネルギーを吸収しているのではないかとと思われる。

光の絵では、視覚刺激が加わることによって脳の活動が分散されるので、振幅は小さくなるが、相変わらず ↑ の 7.8Hz は頻繁に観察された。

気が合う、気になる、気を入れる、などの「気」の概念は、現代科学では定義が無く、研究の対象にもなっていないが、古くから伝わる日本固有の概念であるから、もっと研究されるべきものとする。 ↑ の位置で気づき、気になり、気がする、という感覚だと思われる。今後さらに研究を深めて「気」に関わる現象を解明するチャンスだと思われる。

#### 4. Sさん（上段）とChieさん（下段）の脳波（4月23日）



手当療法を受ける側も頻繁に ↑ で示した位置で 7.8Hz のスペクトルが観察されているので、これが治癒を促進させる要素だと思われる。7.8Hz は自律機能を活性化して自己治癒力を高めている。

しかも、2人の脳波が 7.8Hz でコヒーレントになることは、偶然では考えられないので必然的なメカニズムが存在しているはず。そこには、バンアレン帯のプラズマ振動による電磁波が介在して、天界のエネルギーと 1/f ゆらぎ情報を取り込んでいると思われる。先に述べた「気」の現象で、脳波観察と合わせることによってヒーリングメカニズムを解明することができ、より信頼性の高い療法を確立できるとと思われる。

<志賀一雅工学博士>

7.8Hz 脳波研究の第一人者。脳力開発研究所設立。日本文化振興会より社会文化功労賞と菊華勲章受賞。米国保険社会福祉省（大統領諮問機関）より長年の脳波研究に対しGoldAward（金賞）を授与。